

北海道教育委員会教育長 様

北海道浜頓別高等学校長 福 本 典 子

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 主体的に学ぶ生徒の育成を目指し、授業での基礎学力の向上とより高い次元で学ぶ力の育成を図る。
(2) 教職員及び地域・保護者間での学校課題の共有に努め、改善に向けた協働体制を構築する。
(3) 服務規律の遵守と働き方改革を推進し、信頼関係に基づく教育活動を展開する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	○ 授業改善や生徒理解について、更なる力量形成が必要である。 ○ 観点別学習状況の評価について、適切に運用されているとともに、教員間の共通理解が得られている。 ○ 学力差が大きい生徒への対応について、検討及び実施が必要である。	生徒の学力向上のため、一層の授業改善及び教員の力量形成を期待したい。特に中間層の学力向上を実現させてほしい。また、スタディサプリ等のICT活用に係る指導を充実させてほしい。
改善方策	○ 教員の力量形成のため、深い学び、探究的な学びについて授業研究、研修等の意欲的な参加を促す。 ○ 教科会議や研修等を通し、評価の信頼性及び妥当性について知見を深め、生徒、保護者等に十分に説明責任が果たせるよう学校として共通認識をもつ。	
生徒指導	○ 生徒個々との面談やいじめの実態調査を行い、いじめの把握に努めるとともに、積極的ないじめの認知を行い組織的に対応しているが、いじめの未然防止に係る取組の更なる充実が必要である。	SNSに係るトラブルの未然防止への一層の指導の充実を期待したい。
改善方策	○ 本校のいじめに関する取組について、LHRやPTA総会を活用し、リーフレット等を用いて生徒や保護者に説明する機会を増やす。 ○ 保護者と日常的に生徒に関わる情報共有を徹底していくとともに、学校として組織的な対応を図っていく。	
進路指導	○ 定期的な進路希望調査の実施、計画的な模試や講習、担任等との進路面談等、生徒の進路実現に向け効果的な進路指導ができている。	系統的なキャリア教育の視点から働くことの意義を指導してほしい。
改善方策	○ スタディサプリや遠隔講習等を活用しながら進路希望にあわせた取組を行う。 ○ 生徒にとって進路実現に役立つ進路行事かを評価・改善し、実りある進路行事になるよう精査する。 ○ 生徒へ進路先に係る情報提供及びキャリア教育の一層の推進を図っていく。	
健康・安全指導	○ 健康意識・安全意識については、各種講話や体験活動を通し、生徒の健康安全、防犯等の意識を高めることができた。 ○ 社会情勢の変化に伴う新たな危機が想定されるので、危機管理マニュアルの精査と改訂が必要である。	生徒の健康・安全について、今後も学校として目を配ってほしい。
改善方策	○ 生徒の情報を共有し、職員全体で指導・支援できる体制づくりを進める。 ○ 危機管理マニュアルの見直しと改訂を進め、更に実効的なものとする。 ○ 保護者との連携、関係機関からの助言等を総合的に勘案し、配慮が必要な生徒へのサポートを充実させる。	

保護者連携	○ 定期的に通信の発行、ホームページにタイムリーな話題を随時更新するとともに、本校の情報発信を行うことができたが、保護者や地域の方に学校の教育活動の様子が伝わっていない部分がある。 ○ 学校祭をはじめ各種の学校行事に対し、保護者の理解・協力を得られているが、負担にならないための工夫や参加率向上の方策を考えなければならない。	広報活動の工夫、保護者が学校に対し関心を高める工夫を進めていただきたい。
改善方策	○ 保護者や地域社会との連携をさらに深めるため、さらにこまめな情報発信を行う。 ○ 学校行事等を通し、保護者が学校や生徒の様子を見ていただくよい機会という認識のもと、今後も情報発信を行い、継続的に協力をお願いする。	
働き方改革	○ 教員の超過勤務時間は経年比較で減少傾向にある。また、部活動休養日の設定及び実施は、全ての部活動・局において遵守されている。 ○ 特定の教員に超過勤務時間が継続的に多い実態がある。	今後も教職員の心身の健康に留意いただき、働き方改革への取組を一層進めていただきたい。
改善方策	○ 管理職の一層の業務マネジメントが必要であり、各自の業務量を把握し、協働体制の実現を図るとともに、風通しの良い職員室づくりをこれからも行っていく。	

【学校運営に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
互いに認め合い、自分で判断し、行動できる生徒の育成	○ スクールカウンセラー講話、教育相談等を通し、生徒の他者を認める心や協調性を高めることができた。一方で自己有用感が低い生徒がみられる。	今後も生徒が充実した高校生活を送れるような教育活動の実現を期待したい。
改善方策	○ 教育活動において生徒が主体的に活動できる場を設定し、生徒の自己有用感を高めていく。	
自主的で責任感をもって物事に取り組む生徒の育成	○ 学校祭等の学校行事を通し、主体的に行動し他者と協力し目標を達成できている生徒が増加した。	生徒の自主性や主体的に取り組める生徒を育ててほしい。
改善方策	○ 今後も生徒が主体的の活躍できる場を教員が援助する。	
地域を理解し貢献していこうとする生徒を育成している。	○ 「総合的な探究の時間」を中心に地域探究を実施し、地域理解を深めることができた。また、部・局活動では、中学校との連携をはじめ地域に貢献できている。	今後の地域の行事等へ生徒が参加していくことを期待したい。
改善方策	○ 「地学協働」を一層推進するため、教員の「社会に開かれた教育課程の実現」、「地学協働の理念」を学校全体として共有し、地域との連携を一層深めていく。	
公表方法	学校ホームページ・保護者配付文書において公表	

添付資料

令和6年度学校関係者評価書（含保護者評価・教員評価）